

受 験 番 号					
------------	--	--	--	--	--

2027 年度 大阪医科薬科大学大学院
看護学研究科入学者選抜学力検査 解答例

〈博士前期課程〉

専門（共通）

問題 1

【作問の意図】

本問題は、理論やモデルを知識として理解するだけでなく、対象者の理解と看護実践に活用する能力を評価することを目的とする。糖尿病患者のセルフマネジメント支援を題材として、対象者の状況に適した理論またはモデルを選択し、その理由を説明したうえで、理論の概念を用いて対象者の言動やその背景を解釈し、アセスメントに基づく看護支援を検討することを求める。理論・モデルの選択から対象理解、看護支援までを一貫した論理で説明できることを評価する。

【参考文献】

医学書院 系統看護学講座 看護研究 2026 年版

黒田裕子編. 看護理論家とその業績 第3版. 医学書院.

【解答例】

1)	<p>選択した理論またはモデル： 自己効力感理論、ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージモデル、オレムのセルフケア理論、など</p> <hr/> <p>理論またはモデルを選択した理由：</p> <p>＜自己効力感理論＞ Aさんは「運動や食事療法を続けられるとは思えない」と話しており、生活習慣改善を実行・継続することへの自己効力感が低いと考えられる。自己効力感を高め、実行可能な療養行動につなげる支援を検討するために、自己効力感理論が有用である。</p> <p>＜ヘルスビリーフモデル＞ Aさんは「血糖値が高いと言われても実感がない」と話しており、糖尿病が健康に及ぼす影響や合併症が生じる可能性を十分に認識していないと考えられる。一方で、合併症への不安や健康を維持したいという思いもある。健康行動に影響する病気の脅威、行動の利益および障壁に対する認識を捉え、生活習慣改善につながる支援を検討するために、ヘルスビリーフモデルが有用である。</p> <p>＜行動変容ステージモデル＞ Aさんは、生活習慣を改善する必要性を感じている一方で、具体的な行動には至っていない。Aさんの行動変容の段階を把握し、その段階に応じた支援を検討するために、行動変容ステージモデルが有用である。</p>
2)	<p>理論またはモデルに基づいた A さんのアセスメント：</p> <p>＜自己効力感理論＞ Aさんは「運動や食事療法を続けられるとは思えない」と話しており、療養行動を実行・継続することへの自己効力感が低いと考えられる。その背景には、仕事が忙しく、療養行動を生活に取り入れることが難しいという認識がある。一方で、「できるだけ健康でいたい」という思いは、療養行動に取り組むうえでの強みである。</p>

受 験 番 号					
------------	--	--	--	--	--

	<p><ヘルスビリーフモデル></p> <p>Aさんは自覚症状がなく、父親も糖尿病で大きな問題なく生活していたことから、自身に合併症が生じる可能性や、その重大性を低く認識していると考えられる。また、仕事の忙しさや療養行動を継続する難しさを、行動を妨げる障壁として捉えている。一方で、合併症への不安や健康を維持したいという思いがあり、生活習慣改善による利益を理解することで、行動につながる可能性がある。</p> <p><行動変容ステージモデル></p> <p>Aさんは、合併症への不安や健康を維持したいという思いから、生活習慣改善の必要性を認識している。しかし、具体的な行動や開始計画には至っていないため、熟考期にあると考えられる。仕事の忙しさや継続への自信のなさを行動開始の障壁として捉え、行動することの利益と負担との間で迷っている状態である。</p> <hr/> <p>看護支援：</p> <p><自己効力感理論></p> <p>Aさんの生活状況や仕事との両立可能性を確認しながら、達成可能な目標を患者とともに設定する。例えば、退院後すぐに大きな行動変容を求めるのではなく、通勤時に歩く距離を増やすなど実現可能な目標から取り組めるよう支援する。また、目標が達成できた際には成果を振り返り成功体験として認識できるよう働きかける。さらに、糖尿病患者の体験談や療養行動の実践例を紹介することで、療養行動への自信を高められるよう支援する。</p> <p><ヘルスビリーフモデル></p> <p>Aさんの糖尿病や合併症に対する認識を確認し、検査データと生活習慣を関連づけながら、現在の状態と合併症の可能性を具体的に説明する。そのうえで、生活習慣改善によって得られる利益と、仕事の忙しさなどの障壁をAさんと整理し、生活のなかで負担が少なく実行できる方法を検討する。</p> <p><行動変容ステージモデル></p> <p>生活習慣を改善することの利益と負担をAさんと整理し、本人が改善の必要性を納得できるよう支援する。また、仕事や生活の状況を確認し、通勤時に歩く時間を増やすなど、無理なく始められる行動とともに検討する。Aさん自身が取り組む行動と開始時期を具体的に決められるようにし、熟考期から準備期への移行を促す。</p>
--	---

受 験 番 号					
------------	--	--	--	--	--

2027 年度 大阪医科薬科大学大学院
看護学研究科入学者選抜学力検査 解答例

問題 2

【出題意図】

- 1) 「教育の効率化」や「学生間の比較」ではなく、ピア・アセスメントが持つ「メタ認知の育成」という本質的な教育的意義を理解しているかを問う。
- 2) OSCE における、評価のブレや不公平性をなくし、客観性と測定の一貫性（信頼性）を担保する方法を理解しているかを問う。

【解答】

1)	2
2)	3

問題 3

【出題意図】

- 1) 反転授業における「授業前・授業中・授業後」の学習活動の論理的整合性とカリキュラム設計を理解しているか。
- 2) 看護学教育において、学生が主体的に学び続けるための基盤となる教育設計の理論的根拠を理解しているか。

【参考文献】

- ・Deci, E. L., & Ryan, R. M. (2000). The “what” and “why” of goal pursuits: Human needs and the self-determination of behavior. *Psychological Inquiry*, 11(4), 227-268.

【解答】

①	習得
②	深化
③	内省
④	自律性
⑤	有能感

受 験 番 号					
------------	--	--	--	--	--

問題 4

【出題意図】

本設問は、退院支援場面で生じる倫理的問題を、自律尊重、善行、無危害の各原則の観点から捉える力を評価することを目的とする。また、患者と家族の意向が異なる状況において、双方の意向やその背景、患者の生活可能性を把握し、患者・家族・医療者間の対話を調整しながら、患者の意思決定を支援する看護師の役割を考察できるかを評価する。

【参考文献】

医学書院 系統看護学講座 看護倫理 2026 年版

日本看護協会. 看護職の倫理綱領. 2021., 清水哲郎, 会田薫子 編. 臨床倫理の考え方と実践—医療・ケアチームのための事例検討法. 東京大学出版会, 2022.

【解答例】

1)	<p>Bさんは自宅退院を希望しているが、退院前カンファレンスでは、長女の不安や転倒の危険性が重視され、Bさんが自宅で生活したい理由や大切にしていることについて十分に話し合われていない。そのため、Bさんの意思や価値観が退院先の検討に十分に反映されず、本人の意思を尊重する自律尊重の原則が守られていない可能性がある。</p> <p>一方、長女や医療者は、善行・無危害の観点から転倒予防と安全確保を重視している。この事例では、Bさんの希望と安全を両立する方法について、本人を含めた十分な話し合いが行われないまま、退院先が検討されていることが倫理的問題である。</p>
2)	<p>看護師は、Bさんが自宅で生活したい理由、大切にしている価値観、望む生活を確認するとともに、意思決定能力を評価する。また、長女が施設入所を希望する背景にある転倒への不安や、支援・介護に対する負担感についても確認する。</p> <p>そのうえで、Bさんの身体・認知機能、ADL、住環境、自宅で生じ得る危険、家族の支援体制を把握し、自宅生活を支える介護保険サービスや地域資源を検討する。</p> <p>さらに、各選択肢の利点と危険を本人と家族に説明し、Bさんの思いや希望が家族や医療者に共有されるよう支援する。本人・家族・医療者が話し合う機会を設け、Bさんの意思を尊重しながら、家族の負担や安全面も踏まえて退院後の生活をともに検討する。</p>

受 験 番 号					
------------	--	--	--	--	--

問題 5

【出題意図】

単に研究方法の知識を問うのではなく、研究目的に応じて適切な研究アプローチやデータ収集方法を選択し、その理由を説明できるかを問う。

【参考文献】

医学書院 系統看護学講座 看護研究 2026 年版

D.F.ポーリット&C.T.ベック.看護研究 第3版. 坂下玲子監訳,. 医学書院, 2025.

【解答例】

1)

研究 A に適した 研究アプローチ	質的研究
理由	本研究は、患者が退院後の生活で体験した困難やその対処を深く理解することを目的としている。質的研究では、「対象者の語り」などの質的な情報（データ）を収集・分析することで、主観的な体験やその意味、そしてそこで起きている現象を明らかにすることができる。そのため本研究には質的研究が適している。

2)

研究 A に最も適 したデータ収集 方法	半構造化面接 ・非構造化面接／インタビュー／面接／フォーカスグループインタ ビューも可 ・参加観察
理由	患者の体験を深く理解し、その意味づけや現象を明らかにするため に、患者が体験した困難や対処を自由に語ることができ、研究者が必要 に応じて質問を加えながら、詳細な情報を収集できる半構造化面接 が適している